

令和5年度の教育活動等における学校評価書

令和6年 2月 29日

学校法人 麻機幼稚園園長高橋明人

学校法人 麻機幼稚園学校関係者評価委員会

- 1 教育目標 「健康で明るく元気な子」
 重点目標「元気いっぱい(元気なあいさつができる)」「やる気いっぱい(好きな遊びを見つける)」「笑顔いっぱい(自分の気持ちを伝える)」
- 2 教育方針 自然に恵まれ、うるおいとゆとりある環境の中で、様々なものや事柄に興味関心をもち、大勢の人とかかわり合いながら、身体を精一杯動かしたり、遊びを工夫したりして、自分の考えをもち、自分で行動できる子を育てる。このような資質をもった次代を担う人づくりをめざす。
- 3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果 A:よくできている B:概ねできている C:余りできていない D:できていない

評価項目	評価	自己評価の視点、理由、改善点など	評価	学校関係者評価委員会意見
0 子どもの姿	A	<p>○「本園教育目標」「3つのいっぱい」への子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「元気いっぱい」での挨拶ができるかどうかは、保護者は79.7%に対して、職員自己評価は100%、園全体評価では95%以上と高い。 ・教育目標達成への自己評価は高く、子どもたちは「健康で明るく元気な子」に育っている。欠席状況もクラスにより偏りはあるが、行事などの活動参加意識は高く、子どもが意欲的に活動している。好きな遊びを楽しんでいるかという「やる気いっぱい」は園全体で95%、保護者は95.5%、自己評価は100%に達する。 ・「笑顔いっぱい」での今年の視点は、「自分の気持ちを伝えることができるか」であったが、自己評価では100%、園全体では85%、保護者アンケートでは82.7%となっている。正規職員は、どの子どももみんな自分の気持ちを伝えることができるという評価である。 ・子どもの姿の達成度をまとめてみると、正規職員はどの項目も「大変よくできている」と「おおむねできている」で100%達成の自己評価をしている。クラスなど自分が関わる子どもに対して、12月の時点でどの子どもみんなできているという自負のもとで評価が行われているというのは、かなり大きな成果ではないだろうか。 	A	<p>○園全体に活気がある。元気な挨拶もたくさんしていた。保育中の先生も「お世話になります。こんにちは」と元気な笑顔で声を掛けてくれ、とても素敵な園だと思った。</p> <p>○いつ園に行っても子どもたちの元気いっばいにあそぶ様子がうかがえる。保護者を見つけると自からかけより元気いっばいのあいさつをしてくれる子が多い。</p> <p>○園庭に出ていなくても各教室で子ども同士夢中になって遊ぶ姿が見られる。</p> <p>○子どもが園に行きたくないという話は聞かないので、それぞれ楽しみを見つけて通園していると思う。</p> <p>○自分の気持ちを伝えるという点では、友達との間でうまく自分の気持ちを話せなかった時は、先生が仲に入って丁寧に対応していただいた。学年主</p>

**○今年度の重点「自分で考えやってみる気持ちと力を育てる」
の達成度**

・本園は、一斉を主とした活動の中で、学級の皆が同じめあてを達成することを目的とした保育を進めている。主活動は技能的な習熟を目的とするものが多く、保育者や学年で決められた教材・手順ややり方によって、どの子ども同じ技能の習得を目指した指導を行い、できるようにしていくことが目的だと言える。今年度の重点は、「自分なりにやりたい遊びを考えたり、その遊びを発展させるために工夫したり友達とかかわったりする意図的な遊びの計画の中で、重点として評価されることなので、このような主体的な遊びへの気持ちや力を目指すという目的として、本園の重点として、適していたか考えている。

例えば運動会や発表会の取組に対して、保育者が設定したものをどの子ども行う中で、いかに子どもたちがやる気をもって練習をしたり、上手になろうと子どもなりに工夫して取り組んだりする部分について評価をしていくことができるという可能性はあるだろう。保育者としては、子どもが意欲的に（自主的に）練習ができるような環境設定や投げかけがどのようにできたかということが、自己評価の基準になるのではないだろうか。

任の先生とも共有してトラブルがあった後も親も子ども安心して通わせることができた。

○園全体の雰囲気が明るく、子どもらしく元気いっぱい楽しく過ごしているなど感じる。本部役員になってから幼稚園にイベントや行事以外で行くことも増えたが、子どもたちが毎回大きな声であいさつしてくれるのは、本当に気持ちがよくパワーをもらっている。あいさつはもちろん、「○○ちゃんのママ」と声を掛けてたくさんのお話してくれる子ども多くいて子どもたちに会えるのも楽しみになっている。

○園庭でそれぞれ遊んでいた子どもたちの中で一人の子が「鬼ごっこやる人この指とまれ」と声を掛けるとたくさん子どもたちが集まって遊び始める様子を目にした。子どもたち発信で仲間を作って遊びをスタートさせる姿は家では見ることができないのでとても感動した。

○発表会では（年長）楽器を自分で決めさせてもらえたので、上手になるぞ！！という意欲にもつながったのかなと思う。クラス全体での練習で掛け声を入れたら、担任の先生がそれをダメと言わず、採用してもらえ、とてもありがたかった。

○まず初めに、園に入った時に「おはようございます」とどの子からも元気のよい返事が返ってきて、挨拶がしっかりできていると感じた。

○子どもの行動に個人差があるのは仕方ないが、全体を見ながら遅れのある子を見捨てず間違いがあればやり直しをさせ、遅れのある子が終わってから次のステップに移って教育している姿が見られ、感動した。

<p>I 保育の計画性</p>	<p>A</p> <p>○今年度の保育方針に基づいた保育の計画・実践・振り返り</p> <p>保育計画については、計画の評価反省点を活かしていることについては、100%が「おおむねできた」という自己評価をしている。行事面は特に、コロナ禍以前に戻すという理念の中、やり方について再検討されてきた。行事で子どもを育てるという意識が高く、その背景にあるのは、「0子どもの姿」に出ている保育の視点があるからだろう。どの子どもも同じ目標に向かって、一斉に取り組むことへの計画は立てられ、そこに達していない子についての指導の仕方は、常に考えられてきたことがうかがわれる。</p> <p>「振り返り」では、「毎月の保育計画の振り返り」や「行事評価のアンケート」を定期的に出し、ファイリングしながら、次の活動に活かすことができるようにしている。</p> <p>○子どもへの願いやねらいをもち、幼児の興味関心に応じながら指導計画を作成している。</p> <p>自己評価のできているという評価は、100%と高い。同じ目標に向かって一斉に取り組む中で、個々に対して、願いや対応を考えるのは難しいことである。しかもその目標が、子どもの興味関心に沿ったものであれば、関わりを通して実施していくことへの価値は高い。</p> <p>このように職員は、子どもに沿った保育計画には100%できたとしているが、「園の方針」や「教育要領」「育ってほしい10の姿」といった幼稚園教諭として、本園教職員として同じ方向での保育計画に対しては、十分な評価と言えない。私立幼稚園とはいえ、国で示すことや園の方針について、理解してもらうことがまだ十分ではないのだろう。</p>	<p>A</p> <p>○小学校でも生活科以外の教科は身に付けたい力（目標）に向かって授業を進めるので、園と同じような悩みはある。「個別最適化な学び」と「協同的な学び」の実現を目指している。先進校に研修に行くと、一斉授業を大切にすることで、最別最適な学びをした時に、学習の成果が出ると教えていただいた。小学校でもどのように単元を構成するか、カリキュラムを作るか模索している。</p> <p>○いろいろな行事もコロナ禍前のように行えるよう試行錯誤をしながら取り組んでいることがよく分かった。麻機幼稚園の行事の多さは園の特色でもあり魅力でもある。季節ごとの行事も行ってきているが、雪遊びやサマーキャンプ、どんど焼き等が復活してくれるとより魅力が増すのではないか。行事としてやらなくなった時、理由を含めて保護者に伝えてくれるとありがたい。</p> <p>○運動会や音楽発表会での大きな舞台では先生や友達同士での声掛けが大きく、自宅でも練習したり家族の前で披露したり意欲的に取り組んでいた。</p> <p>○今年はほぼすべての行事がコロナ前に戻って親子もとても充実して楽しむことができた。運動会のソーラン節の練習を見学させてもらったが、一人一人が本気で取り組んで集中している姿はとてもかっこよかったし、先生の掛け声も子どもたちのモチベーションをあげているなど感じた。同じ目標に向かって子どもたちと先生とみんなで作っているのが見られて嬉しかったし、感動した。他の学年の行事が見られるのはやはりよい。</p> <p>○コロナ禍で一度0になったものを再度立ち上げる苦労は大変だったと思う。先生方が大変努力した賜物だと思う。次年度に向けて更なる発展をお願いする。</p> <p>○麻機の歴史や文化についても広め、地元愛を幼児</p>
---------------------	---	--

				のうちから育てていただくとよいと思う。また、材料として例えば、「あさはた緑地管理事務所」の資料を参考にしたり、情報のアンテナを広くしたりするとよいと思う。
II 保育の在り方 幼児への対応	A	<p>○健康と安全への配慮</p> <p>教育活動の優先順位は、1位は「安全」2位は「人権」3位が「教育効果」である。この評価項目では、まず「できていて当たり前」なこと、次に「できたほうがいいこと」、そして「できていればすばらしいこと」に分けて考えると、「できて当たり前なこと」は100%でなくてはならない。その点の意識はきちんと持って保育をしているようだ。</p> <p>ただ、毎月の安全点検では、「朝の自由遊び」「食後の自由遊び」など、自由遊びの際、職員の見届けについてより手厚い方法がないか検討することもあった。「ヒヤリハット」を集めるなど意識は常にもっているが、園から段差や角などすべてなくすことはできにくく、更なる職員の見届けと同時に、子どもが自分で危険に注意したり回避したりすることを身に付けることも大切だろう。「できて当たり前」項目については、さらに精度を高めたい。</p> <p>○幼児の見取りと理解を指導にいかす</p> <p>これは、「園児への共通理解を図る」という点で、今年度の職員間の合言葉ともいえる「どの子どもみんな育てよう～ひとりの職員は全園児を育てる職員であり、全職員で一人の子を育てる目的をもつ～」ことに合致している。子どもへの理解を目的とするのではなく、その理解をどう共有し、子どもを育てていくのが大事である。自己評価は高いが、個々への対応については、「これでできた」という答えはなかなか出ないだろう。少しでも子どもの育ちに手ごたえを感じているのなら、成果はあったと判断していいのではないだろうか。少なくとも、どの職員も子どもの名前と顔が分かるだけでなく、保護者の顔と名前の理解もしており、理解や対応の質を上げていく可能性はかなり高いだろう。</p>	A	<p>○皆で園児皆を見る意識はすばらしいと思う。各々の子どもの良さや課題を多様な場面で確認し、個に応じた手立ても共有できると思った。</p> <p>➡特別支援教育への充実につながると思う。</p> <p>○安全面においては基本的に安心して任せている。バスの安全装置の設置も素早く行って感謝している。HPの欠席人数も比較的早い時間に更新されており、しっかり管理してくれているという印象。バスのGPS機能があるとより便利だと感じる。（遅れが生じているなど）</p> <p>○クラス担任だけでなくどの学年の先生もあいさつのみならず声を掛けてくれる。</p> <p>○ひよこ年少クラスは担任だけでなく補助の先生が何名かいた方が安心。数年前は年少だけで4クラスあった。園児数減少もあるが一人の先生の負担が大きい。特にひよこ組は、目が行き届く環境づくりが必要なのではないか。</p> <p>○バスの安全装置が付いたのはとてもよかった。バスにGPSを付けてスマホから位置を確認できるようになるとより安全にもつながるし、バスの到着時間が前後する場合に親が対応できるという話が保護者から出ている。</p> <p>○親ならこのくらいなら大丈夫だと言ってしまいそうな小さな怪我でも処置してくれ帰りの先生に伝達してくれているので助かる。どの先生に会っても子どもの名前を呼んでくれるのは嬉しいし、お迎えの時間でも保育の中で起きた小さなエピソードを話してくれる先生もいて、見ていてくれるの</p>

				<p>だなど安心と幼稚園での過ごしている様子を知ることができるのでありがたい。</p> <p>○来園の都度拝見させていただいているが、昨年度以上に整理・整頓がされ、ゴミ等も落ちておらず安全性が保たれているように思う。この状態を維持するのは大変だが、継続をお願いする。また、ヒヤリハットの収集は安全対策に非常に重要だと思う。</p> <p>○帰宅時の通園バスの中を見る機会があるが、どのバスの園児たちもしっかり座席に座っており、それを見守っている教師も安全に気を付けている様子が、外から見てもわかった。</p>
<p>Ⅲ 専門家としての能力・良識 マナー</p>	A	<p>○教職員・組織で働く社会人としての意識と行動を振り返る</p> <p>前半は、教職員としての意識や振る舞いにかかわる内容、後半は教職員に限らず、組織の中で働く社会人として身に付いてほしい内容だと言える。</p> <p>また、この項目は個人としての評価だけでなく、そこで働く現場の雰囲気などにも関わる評価ではないかを感じる。全体の意識の高さが、個人の意識の高さにつながっている。これは、危機管理や信用などに関わる意識として高まっていることだけではなく、職に対するやりがいや誇りなど満足感や達成感など、ポジティブな感覚での意識と行動であってほしい。どれも自己評価が高いが、その内容としてこのような意識の中で「働きやすい職場環境・人間関係づくり」は大切な要素だと考える。</p>	A	<p>○職場の雰囲気が園児に反映すると思う。よい雰囲気なのではないかと思う。</p> <p>○先生同士の仲が良いのが伝わってくる。そういうところで連携がとれていると思う。</p> <p>○子どもと接する先生がいつも元気で安定しているので、子どもも安心できる。</p> <p>○体操に特化している先生がいるのもありがたい。</p> <p>○幼稚園に行ってもいつも明るい雰囲気だなと感じる。先生同士も楽しそうにコミュニケーションをとっているのかなという印象だ。</p> <p>○先生方は専門的な勉強をしていらっしゃると思う。その中で、公平さ・挨拶・感謝に配慮されているとアンケート結果から読み取れた。この3点に重点を置いた行動があれば十分だと思う。</p>
<p>Ⅳ 保護者への対応</p>	A	<p>○保護者に園や学級での様子を伝える(量・姿勢)</p> <p>保護者と職員の距離は近く、保護者は職員とコミュニケーションがしやすい環境になっていると思う。職員も保護者とのかわりについては、いろいろな受け止め方や配慮を考えようとしている。この評価だけでなく日頃園長への報告の内容からも感じる事である。実際に園長が対応しなければならないような大きなクレームなどはなかった。</p>	A	<p>○園長だよりから各活動の目的も伝わった。</p> <p>○先生には何でも相談できる環境にあると思う。怪我等園で何かあった際もすぐに連絡をいただけるので安心している。逆に何も無い特に、ちょっとしたエピソードや仲良くしている友達、はまっている遊びなどの小話をしてけると嬉しい。してくれる</p>

いろいろな問題に対して、職員が決して一人で抱え込むことがないよう呼び掛けている。どんな問題にしても、職員個に責任があるのではなく全体や管理職が対応すべきものだとことや、いろいろな問題を共有しながら解決していくことが大事だと考える。また、今後の対応にどの職員も活かすことができるようにしたい。

このように、後ろ盾があるということを感じることで、職員も気軽に保護者との対応ができると感じてほしい。

○子どもの記録や資料を基に適切な内容を伝える(質)

希望面談を年末に行った。担任には、子どもに様子を伝えたいという保護者が必ずいる。希望面談といえども、この機会を大きく活用し、担任が面談参加に向けて働きかけができるかどうか。日頃からの連絡も大切だが、それはしなければならぬ状況での連絡だということを考えると、こういう面談は、その時の一場面の表れでなく、日頃から見届けているという担任の意識や子どもの見方につながる面談として、大変重要である。今回もそういう働きかけをしている担任もいる。さらに、主任なども交えての話し合いや、年度の最初で今後に向けての話し合いであることも多く、質的に高い内容の話し合いができた。

先生とそうでない先生との差があるように感じる。

○園の HP の園長先生のコラムやあさはたポケットは周りの保護者もよく見ている。写真付きなのでたくさん更新されるとうれしい。

○普段の保育参観(本当に何でもない日、イベントや行事がない)がない分、普段の友達との様子や給食の様子が知れるとより嬉しい。(子どもがいろいろ話すタイプではないので HP で情報を見ることができると安心する)

○希望面談も学期ごとに行っていて、定期的にクラス担任と話せる機会があるのも良い。卒園した園児(上の子)も気にかけてくれてありがたい。

○どの先生も会うと元気にあいさつしてくれるので、何かあっても声を書けやすい。夕涼み会では本当にたくさんの先生が声を掛けてくださり、手を貸してくれたり分からないことには丁寧に対応していただいたりするので、とても感謝している。”子どものためにと同じ目標に向かっていく感じがしてうれしかった。

○通常の保育参観がないので、HP で写真が見れるのがうれしい。実際のクラスでの様子や友達との関わり方など知りたかったので、希望面談をお願いしたが、エピソードを踏まえてとても細かく話を聞くことができたので、親の知らない話をたくさんしてただけでありがたかった。

○時間の制約がある中で、保護者と希望面談を行ったりして、関わりを大切にしていることが分かった。園児一人一人をよく見て、個性を伸ばすことにも配慮していてよいと思う。

○ちょっとしたことを伝えてくれる先生がいて、嬉しい。

直接接することができたので、Face to face の大切さが分かる。

<p>V</p> <p>地域の自然や社会とのかかわり</p>	<p>B</p>	<p>○<u>地域を活用しタイムリーで貴重な経験ができる保育</u></p> <p>今年は、2学期までの園外保育の実施状況が25回と多く、計画的なものだけでなく、気候や自然をタイムリーに感じて、園外保育に出かけることも多かった。まず、量的に活用しようという今年度の重点を達成している。3学期も動物園など内容のある園外保育が計画されている。</p> <p>地域や社会との関わりを意図的につくったり、昨年度出たこの地域の良さを意図的に子どもたちに伝えていったりすることはなかなかできなかった。今年は、地域活用の大きな行事である「田んぼでの泥んこ遊び」「地域を巡る親子ウォークラリー・みかん狩り」が条件や天候の関係で中止になった。</p>	<p>B</p> <p>○地域を活用した経験は、コロナで一度止まってしまった。一から行事をつくっていく大変さがある。(情報収集、アポ取り、打合せ等)しかし、できたら最高だと思う。</p> <p>○園外保育が多く全体的には充実していると思う。</p> <p>○地域で有名な「あさなたレンコン」や「沼のばあ様」など、そういったものに触れる機会があるとよい。地域を好きになってほしい。</p> <p>○昔の遊びをもっと取り入れてほしい。(竹馬 コマ 回し、凧・・・) 地域のお年寄りとの関わりがあるとすてきだなと思う。</p> <p>○園外保育にたくさん出かけてもらえるのはとても良かった。中止になってしまったイベントは残念でしたが、自然がたくさんある麻機幼稚園だからこそできる行事を続けていってほしい。</p> <p>○常日頃から麻機の地域性を活かし、自然の中で教育をしているように感じる。日頃より園外に出て教育しているのが、多々見られ、良い事だと思った。</p>
<p>VI</p> <p>研修と研究</p>	<p>B</p>	<p>○<u>遊具・教材 園内環境に関する研修</u></p> <p>研修については、今までのキャリアの中から、自分なりにどんな保育をしていくかという教材ややり方が確立しているのではないかと考える。保育経験から生み出された自分なりのやり方や学年に応じた保育活動への見通しと実践力は大事である。</p> <p>また、本園なりの特色を出していくことは非常に大事なことであり、何に力を入れていくかにより評価も変わってくる。その点、「遊具・教材 園内環境に関する研修」項目については、低い評価もある。そういう自覚の下で評価していることは大切だが、国で求めている幼稚園教育で行わなければならないことが行われていないことであってはいけない。特色ある活動については、子どもに合わせたり、状況に応じていろいろな視点をもって取り組んだりしながら、より充実した内容にしていける必要があるだろう。</p> <p>その点、コロナ禍前の活動を見直し取り戻すことから始めているが、</p>	<p>B</p> <p>○「不易と流行」を見極めていくことが、これからの時代は大切だと思う。時代にマッチした特色ある麻機幼稚園の教育を今後も研究し続けようとしていることに、頭が下がる。</p> <p>○教材に関しては特にないが、以前行っていた廃材遊びはとても良かった。各家庭より廃材を持ち寄り自分の好きなテーマで組み立て、自由に遊ぶことができ、独創性もあり想像力も膨らむ。家でダイナミックな遊びができない分、新聞紙プールのようなものもよいと思う。家でできない遊びが充実しているとありがたい。</p> <p>○園内環境では園内に花や野菜(あおぞら農園はあるが)を毎日育てる愛でる環境があるとよさそう。園の周りは自然豊かであるが園内にもそういった所</p>

	<p>研修として意識してほしいことは、「自己課題の設定」ではないかと考える。特色ある活動、多様な活動をする中で、職員個々に自己課題をもち、それがどの程度達成できたかという評価の視点も大切ではないか。</p> <p>○特別支援教育への理解と具体的な実践</p> <p>夏の研修に職員全体で参加したり、月の保育方針などに資料を提供したりした。特別支援教育に触れる機会が取組 1 年目としてできたと思う。また、伊藤カウンセラーの巡回相談を活用し、専門的な意見を伺うこともでき、担任とは違った見方や対応の仕方があるということは十分に理解できたと考える。ただ、十分に対応できたかということとは簡単なこと（難易度的にも時間的にも）ではないので、自己評価の低さも理解できる。</p> <p>大事なことは、子どもにはいろいろな特性をもった子がいて、そういう子も含めて保育していくことが保育者として当然のことだということへの認識、どんな子にも対応していくことが保育をする上で必要な力量だということを感じてもらい機会になったと考える。この研修については、来年度も引き続き行っていく。目指すのは、特別に配慮を要する子への支援方法という以上に、全ての子どもを教育するという意識と力量の向上だと考えている。</p>	<p>に力を入れていただけるといい。</p> <p>○季節にちなんだ絵や工作をさせてもらえるのは子どもはとても楽しいと思う。実際に外に出て花や虫を見たり触れたりするのもとても楽しんでいるので、園内でもっと植物と触れ合えるといいのかなと思う。砂場遊びでは、ただ山を作るだけでなく、水を使って遊べたりと遊びの幅が広がるのもとても楽しいと思う。</p> <p>○前回（学校関係者評議員会）保育中のクラスを見学させてもらった時、たくさんの子どもがいる中でも、きちんとクラス全体を見て声掛けをしていると思った。我が子が友達とトラブルがあった時、無理にその場で話をさせるのではなく、別の部屋でゆっくり話を聞いてくれる人がいることは子どもにとっても安心できる場所になると思うので、とても感謝している。</p> <p>○先生の仕事の内容も多くなっている中で工夫され、がんばっている様子が分かる。</p> <p>○今回初めて英語の授業を参観できよ機会だった。園児の個性を伸ばす上で、選択肢が多い方が、良いのだが先生の負担とのバランスをとりながら実施するとよいと思う。外国の方から生きた英語を学ぶことは、これからグローバル社会に生きる子どもたちにとってとても大切だと思う。</p>
--	---	--

4 今後取り組むべき課題

(1) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」達成に向けた子どもの見取りと評価

保護者と職員の園評価で「目指す子どもの姿」の集計をした。いろいろな姿が出た。これを分類するにあたっては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に当てはめた。学年によってもその姿は違うが、どれをとっても本園の教育目標「健康で明るく元気な子」3つのいっぱい「元気いっぱい」「やる気いっぱい」「笑顔いっぱい」に通じることに間違いはない。教育目標は普遍的なものとして、3つのいっぱいについての具体的な姿を、今年度の評価を参考にして、来年度に向けた目標にしていきたいと考えている。特に重点目標を明確にし、来年度1年間全職員が共通理解して取

り組む言葉を考えたい。園長の保育方針は昨年度のものを活用・継続し、職員への認識を高め、量や質の向上を目指したい。

研修の取組の一つとして来年度も「特別支援教育」への理解と活用する力量をつける研修にしたい。

(2) 本園の特色をいかした保育実践の積み上げ

昨年度保護者から出た本園の大きな魅力は、「身体を動かす活動」「のびのびした遊び」「自然との関わり」の3つである。今年度の遊びをこの3つを意識してどのように充実させていくか。「充実させる」とはどういうことを考えたい。

「身体を動かす遊び」…「ちびっ子体操」など活かすことや体を動かす多様な体験を来年さらに充実させていく。

「のびのびした遊び」…本園の保育のやり方を考え、「幼稚園での遊びの本質」を踏まえた保育計画と実践の充実を図りたい。

「自然との関わり」…園外保育の充実は今後も継続していくとともに、保育に自然をどう生かしていくことができるかを考えたい。

(3) 子どもの非認知能力を高める五感を通した多様な体験

保護者アンケートで、「就学に向け文字や数字など学習させることが大切」という項目に、「かなり感じる」46.6%「よく感じる」30.1%「わからない」15.8%「あまり感じない」6%「全く感じない」1.5%とあり、大切と感じる割合が76.6%もあった。これについては、幼稚園の教育として発達段階に応じ、どんなことを育てるか伝える必要があると痛感した。幼稚園の教育は、就学に向けて「先取り教育」をすることではないこと。最も育てたいことは、この幼児期だからこそ育つ非認知能力を育てること。そのために、活動の中で五感を通して多様な体験をしていくことが大切だということを保護者に伝える義務が幼稚園側にはあると感じる。

幼稚園の遊びそのものの価値を伝える中で、どう子どもが成長していくかという過程や事実を伝えることが説得力ある伝え方になると思っている。毎月の園長だよりや毎日更新しているHPのトップページのコラムにはそういう価値を伝えていこうと取り組んできた。ただ、非認知能力は具体的に数字や姿として目に見えることや他と比べられることはできにくいので、子どもの姿への発信を積み上げていくしかないと考える。

それと最も大切な事は、そういう教育を幼稚園でどう実施しているかということである。日々の子どもの姿は伝えることはできるが、その姿が園の教育計画や保育者の教育理念、教育力などにどう反映しているかということが大切になる。スポーツで言うと、試合に勝って優勝するという価値を求めて練習などしているにもかかわらず、勝つためのプランや意識や力量が伴わなかったら、目的自体が違う取り組みになってしまう。

その点、この「子どもの非認知能力を高める五感を通した多様な活動」ができるのかどうか、改めて問い直すことが必要だろう。

ただ、私立幼稚園として、本園なりの伝統や特色があり、それがこの幼稚園を選ぶ保護者のニーズになっているとしたら、幼稚園教育の根底、これから求められる子どもの育成、保護者の求める幼稚園教育の内容、幼稚園環境も含め、このような保育を計画し展開できる教職員の意識と力量というように、いくつもの要素からバランスを考えた保育を進めていく必要があるだろう。